テクノポリス1990年２月号（第９巻第２号）付録
1990年２月15日発行（毎月15日発行）



目　次

劉備となって中国全土を統一しよう……❶

シナリオ別攻略法

シナリオ１……❻
シナリオ２……❼
シナリオ３……❽
シナリオ４……❾
シナリオ５……❿
シナリオ６……⓫

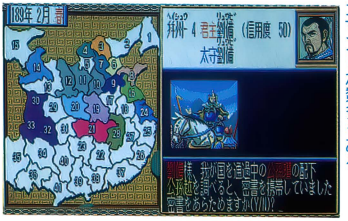
君主英雄伝……⓬

武将列伝……⓮

歴史シミュレーション『三國志II』

　このゲームは、４年ほど前に発売された光栄の人気ＳＬＧ『三國志』を、さらにパワーアップしたものだ。数多くの武将を率いて中国全土を駆ける快感はそのままで、計略や一騎打ち、伏兵など、たくさんの新しいシステムを取り入れてある。

　この「『三國志II』　**八門遁甲の書**」は、そういった新しいコマンドの使い方、効果を交えて基本的な攻略法を紹介し、さらには有名な登場人物についても詳しく説明してある。ゲームをよりプレイしやすく、より楽しめるような構成したつもりだ。まだ、中国全土を統一していない人は、ぜひともこれを読んで、その夢を実現させてほしい。



●基本的なゲームの進め方は前作と同じだが、新しいコマンドが数多くある

※光栄さんのご厚意により、『三國志II』を2本モニタープレゼントします。詳しくは本誌P.56をご覧ください。

シナリオ4を 徹底攻略!

今回の攻略記事は、基本的なことから各コマンドをうまく利用する方法までを攻略過程に織り混ぜながら進んでいくことにする。それでは、『三國志II』の攻略を始めよう!

劉備となって中国全土を統一しよう!!

劉備、諸葛亮を軍師に迎える



すべてはこの3人の誓いから始まる。生まれた日は違っても死ぬ日は同じだ



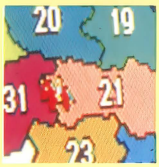
諸葛亮の言うことに間違いはない。正確な助言を常に与えてくれるぞ。くれぐれも引き抜かれないように

今回『三國志II』を攻略するにあたって、どのシナリオにするか迷ったあげく、シナリオ4に決めた。このシナリオは、群雄たちがもっとも緊迫した時期の一瞬をとらえている。この時期、中原の曹操に対抗しうる勢力は、江東の孫権ただ1つであった。次の小勢力に劉備、劉璋、馬騰、この中でもっとも有望であったのが劉備である。208年に諸葛亮を迎えた劉備は、やっと猛将を使いこなせる知将にめぐりあったのである。しかし、それでも曹操、孫権の勢力には及ばず、もし曹操が孫権を倒せば、それで中国統一はなったも同然であった。当時の曹操には、それだけの力があった。しかし、ゲーム中の孫権は一歩も引かないだろう。我らがプレイする劉備も引くわけにはいかなのだ。

外交方針を決める

まず初めに外交方針を決める。劉備のところには、金旋や韓玄から同盟締結や婚姻の使者が馬に乗ってくるはずだ。しかし、劉備は荊州を地盤にしたいと思っているので、簡単には受け入れない。とくに韓玄の部下には興味があるので、ゆくゆくは一戦を交えることになりそう。ここはとりあえず金旋と同盟し、韓玄とは断交した。

外交にお馬さんあり



馬は外交するのに重要だ。よく見ていれば、どの国とどの国が外交しているのかわかる。



金旋から同盟の催促。この国は滅ぼそうと思っていたが……



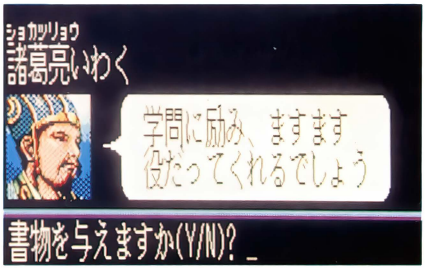
婚姻をすれば敵対心は減るが、その国を攻めると信用度が減る

内政を充実し、在野に人材を求めよう

19国は荊州の中でももっとも発展している場所だ。ここは人材が豊富だから捜索してどんどん登用しよう。今回から武将はひと月に１回しか命令を実行できない。さらに困ったことに、軍師にダメだと言われコマンドをキャンセルしても、実行したことになってしまうのだ。だから、今までのように良い答えがくるまでキャンセルするという方法は使えない。よって三顧の礼もひと月１人しか行えず、三顧の礼を使ってしまうと武将に褒美が与えられなくなってしまう。だから、登用はできるだけ名馬、金、手紙を使うようにしよう。手紙でもけっこう登用できるぞ。内政についてもおこたってはいけない。今回、知力が50～60以上の武将なら、開発や治水など少しの違いしか表れない。中流の武将も頭数がいるだけで役に立つのだ。

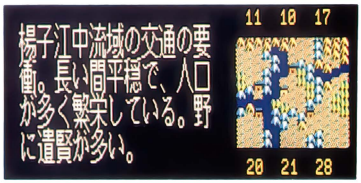


在野の士たち

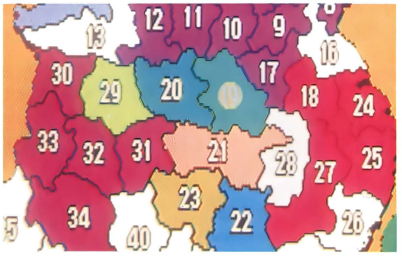


◎周りを他国に囲まれて身動きがとれない状態だ。早く活路を開かないと、曹操が攻めてくるぞ！

◎書物を与えるコマンドは、軍師のいる国でないと実行できないし、太守の命令も使ってしまうので不便



◎19国のＨＥＸ地図。森がどのくらいあるかチェックしておこう。遺賢多しって書いてあるぞ。さあ、人材捜索だ



信用度の上げ方

いつの間にか信用度が下がっていた……、なんてことがよくある。回復させるには、同盟国の外交馬はだまって通してあげること。また、共同作戦には必ず参加することだ。

（信用度 29）→（信用度 71）

イベントあれこれ

今回もイベントは健在。台風、住民反乱など悲惨な災害はいつ来るかわからない。まっ、備えあれば憂いなし。

死の予感

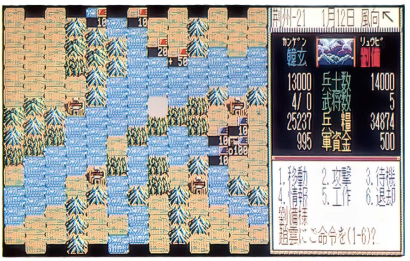


いなご

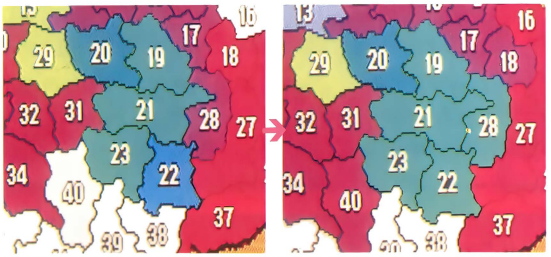


荊州攻略戦

兵士は全員で6万人ほど欲しいところだ。なにせ北には曹操がいる。19国を守るのに3万は必要だ。軍勢がそろう前に計略を使い、21国に理伏の毒をしかけた。が、なかなか登用してもらえない。趙雲に兵5000を持たせたまま、理伏したのに。いつのまにか軍勢が整ってしまったので、しかたなく呼びもどした。すると兵がいない!? 理伏するときには、兵を持っていない武将にすべきであった。気を取り直して訓練でもするか。1人の武将を訓練させれば全体の訓練度が上がるから、ちょくちょく実行しておこう。



○森がどこにあるのかをしっかりと把握すれば、どんなに不利な局面でもなんとかなる!?



○荊州は縦に並んでいるが、真ん中を取られると孤立してしまう。少しでも周りの国を取れば、気分的にラクになるだろう

チェックする武将



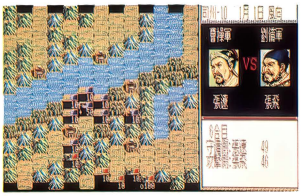
HEX戦の極意 1

●一騎打ち編



待ちに待った一騎打ちシステムだ。戦争になると初めに1回だけ一騎打ちを行うか聞いてくるが、兵士を大勢持っている武将を一騎打ちに出すのは避けたほうがいい。負けた場合は捕らえられてしまい戦闘に参加できずに不利になってしまうからだ。よって、武力を上げたい一騎打ち用の武将を連れていくのがいい。中には勝手に一騎打ちを申し込んでしまうヤツもいるので注意しよう。

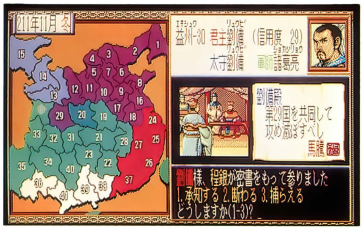
○どちらも猛将だが、武力は張飛のほうが高い。これなら勝てるか!?



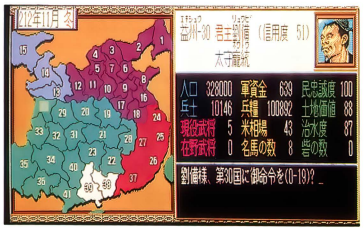


張飛は勝手に受けてたってしまった。一騎打ちで自分よりずっと強い武将に勝てばこんなに武力が上がることも

荊、益2州をとり天下四分する



◎29国はめざわり。馬騰との共同作戦で手に入れたいが…



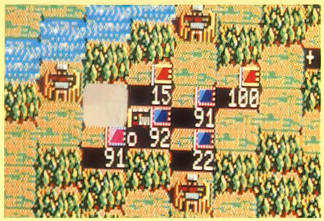
◎次は馬騰に照準を定めようかな。曹操と同盟結ぼうか？

荊州を征服し終わり、劉備は暗愚な劉璋を討つため益州に入った。もちろん孫権と同盟を結び後顧の憂いを絶ってからだ。やっと大兵力が動員できるようになり気づいたことだが、戦闘では敵国に５人しか攻め込むことができないのだ。つまり、武将１人１万人しか持てないことから５万人しか攻め込めない。かなりきついルールだが、共同作戦と伏兵をうまく使えばどうということもない。

チェックする武将



援軍・共同作戦を利用しよう



◎◎こんな戦いをやりたかったんだ。戦いに勝てば、派遣した武将数に応じて戦利品の金、米を分配してくれる

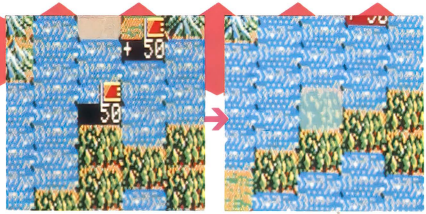


同盟国から共同作戦の申し入れがあったら素直に受け、同盟国が他国に攻め込んだら、できるだけ援軍を出して恩を売っておこう。あまり兵士を減らさない程度に戦い、最後は必ず勝つこと。そうすれば、こちらの被害も少なくてすむし、信用度がグンと増える。

HEX戦の極意 2

●伏兵編

この伏兵は有効に使おう。森に入れば自然と伏兵となり、伏兵した部隊に敵部隊が接すると、その場で伏兵攻撃を仕掛けられる。伏兵のほうは、まったく被害が出ないところがうれしい。これを利用しない手はない。武力の高い張飛１万だけで敵国４万に攻撃を仕掛けてみたが、森の中を伏兵攻撃で逃げまわっているうちに、城にいる武将だけになってしまった。それだけ、この伏兵攻撃は効き目があるのだ。



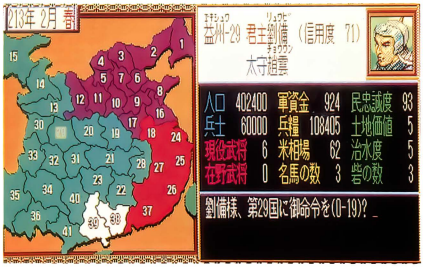
◎下の森のヘクスに移動すると、あら不思議、武将の姿が見えなくなった。これが伏兵だ

馬騰討伐、中原の覇者へ

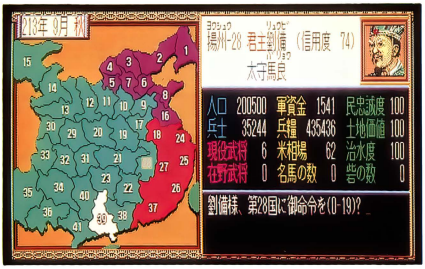
馬騰から何度も同盟の誘いがきたが、つっぱねてついに馬騰を討伐することに成功した。思ったよりあっけない滅亡であった。それだけ劉備の蜀は巨大になっていたのである。馬騰が滅亡すると同時に「美女狩りを行いますか」というなんとも奇妙な問いが……。行おうとすると、諸葛亮に止められ、泣く泣くあきらめた。一度は試してみたい。

計略は有効か？

計略の中で最も有効なのは、忠誠度が低ければ結構成功する「敵中作敵」であろう。「埋伏の毒」は気長な人向け。「二虎競食」は知力の低い君主同士でないと成功しない。「駆虎呑狼」「偽書疑心」も対する武将しだい。どれも最初のうちしか必要ないだろう。

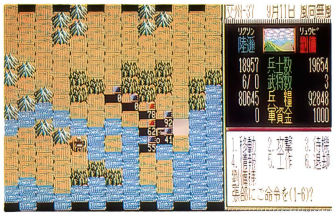


ついに馬騰討伐。曹丕とも手を切って魏討伐へ……



司州は中国の中で最も発達したところである

盟友呉との同盟破棄



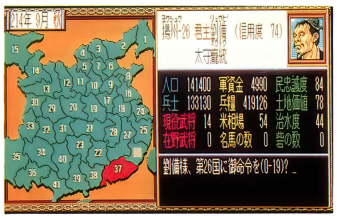
これがラストバトルだ。この戦いに勝てば中国を制覇することができる

もうここまでくれば押せ押せである。馬超、夏侯覇など降将も次々戦闘に加わり、曹丕を倒し、後を継いだ張遼、曹休も首を切られた。劉備の軍はまさに破竹の勢いであった。たび重なる降伏勧告を無視した魏は、ついに滅亡したのである。次に呉とも同盟を破棄し、魏を滅ぼした精鋭軍が呉に襲いかかった。孫権は25国をとられ、24国に孤立し、討たれ、ついに劉備の軍門にくだった。

委任の是非

はっきりいってオススメだ。敵国と接していない国は委任で十分うまくやってくれる。全権委任から、生産型、軍事型、人事型まで選べるのがとっても親切だぞ。

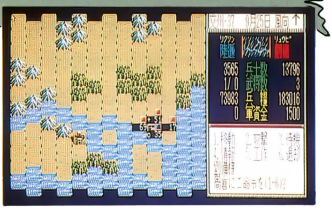
1.全権委任 2.生産型 3.軍事型 4.人事型
基本政策はどの型ですか(1-4)? _



呉も1国のみとなる。この兵力見て。人口と同数の兵士がいるのだ

漢再統一平和な時代もどる

再び中国は統一された。ここでは新たな王朝を少し推測してみよう。名称は蜀漢帝国としよう。後漢の献帝から位を譲られ、劉備は蜀漢昭烈帝となり、都を洛陽に移す。諸葛亮は丞相、龐統は尚書令、関羽、張飛、趙雲、黄忠、馬超を五虎大将軍と定め、新たな漢の出発となることだろう。



あとはコイツをやっつけるだけだ。さあ、がんばれ！

シナリオ 1
董卓洛陽を騒がし群星起つ(189年)



シナリオ解説

184年に勃発した「黄巾の乱」は後漢王朝を大きくゆるがし、王朝は黄巾賊の討伐にために軍勢を募って、これに対抗した。この討伐軍には、後に中国全土を揺るがすことになる曹操、劉備、孫堅の３人も参加している。乱後、小帝の生母何后の兄何進は、宦官一掃のために山西省の凶暴な武将董卓を呼び寄せた。董卓は首都洛陽に入ると、たちまち主導権を握り恐怖政治を断行した。献帝を即位させて、何后、小帝を殺害したのである。この暴挙に対し、袁紹、曹操らはおのおの義兵を糾合して挙兵し、董卓討伐の連合軍を結成することになった。時に189年の末から190年の初めのころであった。ここからこの物語が始まるのである。

君主別攻略法

董卓



う〜む、こんな悪人でプレイする人が、果たして何人いるのだろうか？　とりあえず、このシナリオでは最大の勢力を持っている。この司州（10、11国）の内政に精を出しながら、北東の方向に人材を求めて領土を拡大すればいい。くれぐれも配下の呂布に注意。

曹操



９国の曹操は、周りを強国に囲まれているが、そのいくつかと同盟して董卓と決戦するのもいいだろう。呂布を寝返らせれば勝利も夢ではない。自国の人材にも注目しておこう。いずれにしても、曹操にとってはなかなか手強いシナリオになりそうだ。

劉備



いくら劉備のファンといっても、このシナリオだけはおすすめできない。ど〜しても劉備でプレイしたい！という人は、公孫瓚を早い時期に全力で叩きつぶそう。とにかく３国をとって人材を求めるのだ。次の作戦はその後でじっくりと考えることにしよう。

シナリオ 2
群雄割拠し盛んに覇を競う(194年)



シナリオ解説

董卓の死後、曹操は劉岱の後任として兗州の牧（州長官）となり、一挙に大勢力となった。その力で袁術と同盟を結んだ徐州の陶謙を私怨により攻撃を始めた。陶謙は劉備に援軍を求め、ついに曹操も大軍を動員することになったのだが、そのとき手薄になっていた根拠地兗州に大きな異変が起きた。知将陳宮にそそのかされた張邈は呂布を迎え入れて反乱を起こし、こともあろうに兗州を乗っ取ってしまったのである。やむなく曹操は退却し、兗州奪回を目指すことになった。劉備は陶謙の遺言により徐州を手にし、また、孫堅の死後、袁術に頼っていた孫策も江東で大戦果をあげ、独立することができたのであった。

君主別攻略法

呂布



ついに呂布が君主として登場した。武力は高いが知力はないに等しいので、知性派の武将が欲しいところ。早めに確保しておこう。袁紹か曹操に的を絞って一気に攻め落とすのがいい。また、劉備を倒して関羽、張飛を味方にすれば、さらに領地が拡大するであろう。

孫策



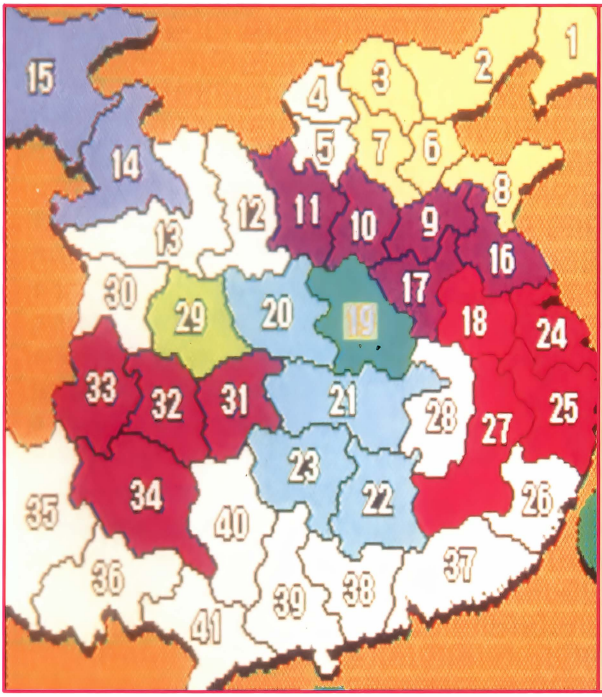
南側は空いているので、のびのびと領地を増やすことができるが、弱そうな劉備がいる北へ進路をとるのも結構面白いかも。北で争いが続いている間に、南へ勢力をのばして人材をドンドン集めるのが基本だということを、よく覚えておこう。

劉備



まずは呂布を攻めること。武力だけで知性なしの呂布だから、火に対しては無防備。火攻めで一気に落とせるはずだ。また、呂布の旧臣の中にも使える人材がいるのでチェックを入れておこう。曹操と呂布を戦わせ、漁夫の利を得るのもいいかも。

シナリオ 3
劉備荊州に潜み脾肉を嘆ず(201年)



シナリオ解説

曹操は袁紹との決戦に先立ち劉備に矛先を向けるが、これに対し劉備は袁紹に身を寄せた。劉備の義弟にあたる関羽は曹操の捕虜となるが、厚遇された礼として袁紹側の猛将顔良、文醜を打ちとる大手柄を立て、曹操のもとを去った。劉備は、いくら関羽が捕らわれの身であったとはいえ、袁紹の武将を殺したとあってはその場にいられなくなり、荊州の劉表を頼りに南下し、劉表に新野を任されることになった。曹操は袁紹を奇襲攻撃で破ったが、袁紹自身は存命しており、何人かの名将も健在で、反撃のチャンスをうかがっている。一方、劉備はこの先どうしたらいいのかわからず、途方に暮れていた……。

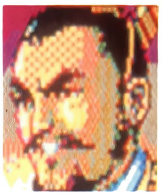
君主別攻略法

袁紹



「官渡の戦い」で敗れてはいるものの、決してあなどれない戦力を持っているのが、この袁紹だ。国力を充実させ、孫権と同盟して曹操を挟み打ちにするのがもっともいい戦略だ。敗戦の後だけに、武将たちもすさんでいるので、「施し」も忘れないようにしよう。

曹操



はっきり言って、北側にいる袁紹を滅ぼすためだけのシナリオといっていいだろう。袁紹を早期に滅ぼし、返す刀で劉備を倒せば後は楽になるはずだ。そのためにも、こちらの戦力が整うまでは、呉の孫権と同盟を結んでおくことが大切なのだ。

劉備



劉備にとっては、またしても苦難のシナリオ。この難局を乗り切るには知力の高い武将が欲しい。とにかく知将を得ることが先決。運のいいことに、ここは荊州の襄陽付近。多くの人材が在野でくすぶっているぞ。知将を得たら、劉表には悪いが荊州を奪いとろう。

シナリオ 4
曹操華北を制し天下を望む(208年)



シナリオ解説

名門袁家が滅び、ついに曹操は華北をも制圧した。残すは荊州の劉表と呉の孫権を倒せば、事実上中国全土を統一したことになるのである。そんなとき、荊州の劉表が劉備に後事てを託して死亡してまった。曹操がこのチャンスを逃すはずがなく、いままさに100万の大軍が荊州に攻め込もうとしていた。一方、劉備は三顧の礼を尽くして諸葛亮を幕下に迎え、彼の説く天下三分の計に自らの夢をふくらませていた。諸葛亮は自ら孫権を説得し、劉備、孫権同盟が成立しようとしていた。ときに、208年。もうそこまで「赤壁の戦い」は迫っていた……。

君主別攻略法

馬騰



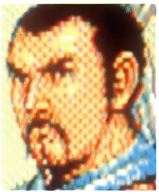
このシナリオのダークホース的な存在の馬騰。曹操と同盟を結んで劉璋を倒してもいいが、ここは、劉璋、孫権、劉備と組んで曹操を倒してみるのはどうかな？　馬騰からみると、曹操の領土は一列に並んでいるので戦力を集中させやすいのだ。

孫権



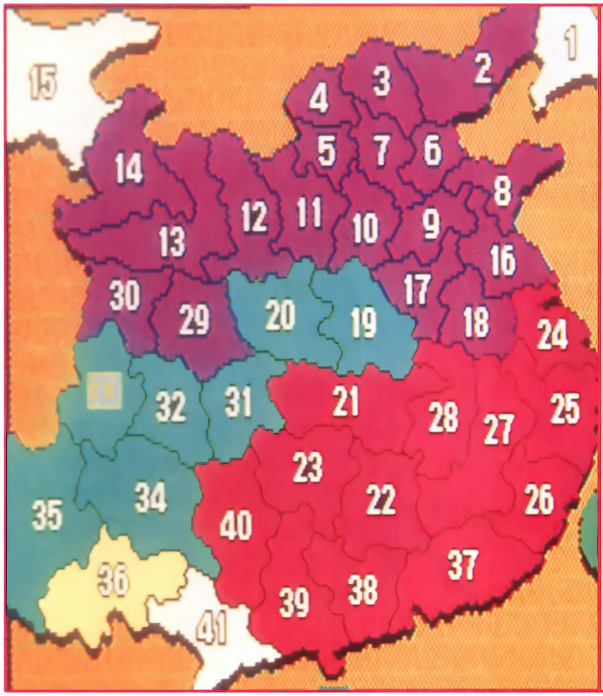
独力で曹操と戦える唯一の勢力といえる。が、それでも最初の１年ぐらいは国力を充実させる期間にしたいところだ。その間に曹操と劉備を戦わせるように仕向け、劉備側のおいしい武将をごっそりいただいてしまおう。そうすれば、正面きって曹操と戦えるだろう。

劉備



なんとか日の目が見えてきたシナリオだ。まだ19国には在野の武将がいるはずだから、それを登用して南下しよう。19国を守りながら荊州全土を劉備の国とするのに集中させ、曹操と孫権の戦いには積極的に参加する必要はない。まあ、援軍ぐらいは出してもいいかな。

シナリオ 5
天下三分し関羽荊州を守る(215年)

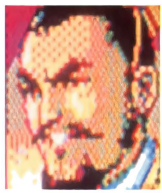


シナリオ解説

曹操は「赤壁の戦い」で大敗北を喫し、戦力を整えるにはあと数年を要した。その間にも劉備は荊州を統一し、韓玄の配下であった魏延、黄忠を傘下に入れ、劉璋を張魯から助ける名目で、ついに蜀に入った。龐統を失うといった誤算はあったものの、知らせを聞いた諸葛亮は自ら張飛、趙雲をともない蜀に攻め込み、ついに成都入城を果たしたのである。同じころ、張魯を見限った西涼の馬超は劉備側につき、蜀は名実ともに魏・呉につぐ第三勢力となった。そのころ、呉では周瑜が死に、魯粛が後任となって軍事面でのトップの座についた。

君主別攻略法

曹操



このシナリオはじっとガマン。1、2年は内政に力を注ぐのがいい。217年にもなれば、かなり戦力が拡大されているはずだ。呉か蜀のどちらかに絞って攻撃をすれば、たやすく滅亡させることができる。劉備の荊州をとってから内政に力を入れてもいい。

孫権



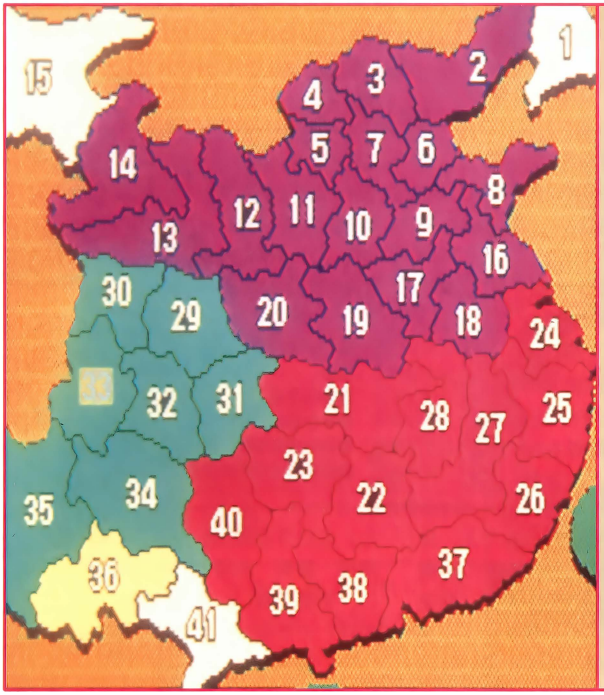
ここまで蜀が大きくなってしまうと、かなりつらい。持久戦に持ち込むよりは、呉の名将を集めて一気に16、18国あたりに攻め込むのが一番いいだろう。このシナリオの場合、蜀と同盟を結ぶのが第一であるが、決して油断しないようにしよう。

劉備



このシナリオで一番狙われるのが荊州(19、20国)である。いち早く呉と同盟して、漢中(29、30国)を取ることを考えよう。一例として、漢中を取ったら魏と同盟し、呉から残りの荊州(21、23、40国)を取る。そこで再び戦う国を考えるのだ。

シナリオ 6
魏・呉・蜀鼎立し三國成る(220年)

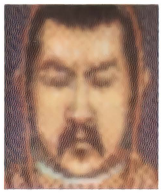


シナリオ解説

魏蜀の国境近くにある漢中に、曹操の軍が攻め込んできたが、ここは蜀の軍事拠点になるため、そう簡単にゆずれるものではなかった。逆に、ここを制圧されると蜀の軍事機能は半減してしまうので、劉備側は必死。勢いに乗っている蜀は、老将黄忠の活躍で魏の夏侯淵を切るという大戦果をあげ、曹操は退却し、劉備は漢中王を名乗った。そのころ、荊州を守る関羽が魏を攻めまくって曹操に大きな脅威を与えていた。ところが、呉の呂蒙、陸遜は魏と密通し、背後から関羽を襲ったのだ。関羽の死は蜀にとって大きなショックとなった。ほどなく曹操が死に曹丕が立ち、呂蒙が死んで陸遜が後任となった。

君主別攻略法

曹丕



ついに世代が変わってしまったようだ。曹丕はあまり最前線には出さないほうがいいだろう。戦略としては、じっくりと蜀の猛将が死ぬのを待つことだ。そうすれば自然に蜀の戦力が落ち、こちらの戦力さえ整っていれば、蜀を落とすのも夢ではなくなるはずだ。

孫権



孫権、陸遜を中心として、北へ北へと攻め上ろう。とりあえず攻めるのは魏に絞ること。蜀とは同盟していたほうが無難だ。曹丕が最前線に出てきたら、周りの国から攻め落としていき、曹丕を孤立させてから打つのがいい。曹丕自身はたいしたことがない。

劉備



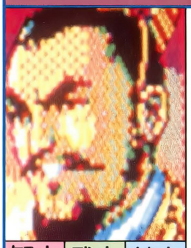
するべきことは早めに済ますこと。もうすぐ劉備は死んでしまうのだ。劉禅なんかに代わったら、とてもじゃないが中国統一は無理！　魏と呉を戦わせて取られた武将を引き抜き、孟獲も一気に滅ぼしてしまおう。人材の補強をするのも忘れずに。

キミはどのキャラでプレイする?

君主英雄伝

『三國志II』には数多くの君主が登場するが、データを見てもわかるとおり、飛び抜けてスゴい!という人物は少ないということがわかる。この時代はどんな人物でも実力さえあれば、天下を狙うことができたのだ。さあ、キミはどの武将を選ぶかな?

曹操



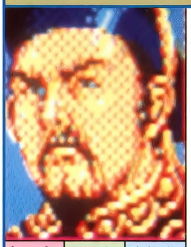
知力	武力	魅力
95	91	95

黄巾の乱鎮圧の功績で一躍有名になる。董卓の死後、行き場のない後漢の献帝を許に迎え、大義名分を得た。その後、中原へ勢力を広げて華北の袁紹と争い、圧倒的に不利な状況で袁紹の食料庫烏巣を焼討ちし、大逆転の勝利を得た。そして、念願の中国統一のために南下し、荊州を奪取して公称100万の軍隊を呉の孫権に向けた。が、赤壁で劉備、孫権の連合軍に惨敗を喫し、統一は夢と消えた。しかし、その後も中原を制覇し続け、息子の曹丕の代では後漢から帝位を奪って、220年に魏王朝を建国した。

シナリオ別保有国

シナリオ1	9
シナリオ2	10 11
シナリオ3	9 10 11 16 17
シナリオ4	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 17
シナリオ5	2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 17 18 29 31
シナリオ6	2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 17 18 19 20

孫権



知力	武力	魅力
89	87	98

「江東の虎」と恐れられた父、孫堅が37歳で死亡し、「江東の小覇王」といわれた戦術が巧みな兄、孫策は26歳の若さで死んだ。後を継いだ孫権は、このとき19歳。孫策に言わせれば、「江東の兵を率いて乾坤一擲を賭けるようなことは、おまえはわしに遠くおよばんが、有能な者をうまく使い、江東を守りぬくことは、わしはおまえに遠くおよばん」ということらしい。このころから、周瑜、魯粛、陸遜といった知将が傑出し、赤壁の戦い、夷陵の戦いという国家存亡の危機にも大勝利。229年には、ついに呉王朝をおこした。

シナリオ別保有国

シナリオ1	21(孫堅)
シナリオ2	24(孫策)
シナリオ3	18 24 25 27
シナリオ4	18 24 25 27
シナリオ5	21 22 23 24 25 26 27 28 57 58 59 40
シナリオ6	21 22 23 24 25 26 27 28 57 58 59 41

劉備



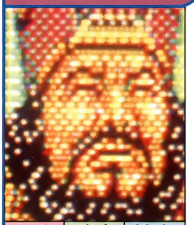
知力	武力	魅力
85	70	99

黄巾の乱の鎮圧に加わり、群雄の1人となる。前漢景帝の子、中山靖王劉勝の子孫。義弟の関羽、張飛とともに、公孫瓚、陶謙、曹操、袁紹、劉表と、次々と各君主に身をよせ、なかなか本拠地が定まらなかったが、諸葛亮を得るとメキメキと頭角をあらわし、劉表の死後、曹操を赤壁で敗って荊州を地盤をすることに成功した。その後、蜀の劉璋を倒し、漢中をも平定して漢中王となる。また、曹丕が皇帝となったことで、劉備も221年に成都で即位し、蜀漢王朝を建国した。人徳を重んじて人の道を外すことを嫌ったという。

シナリオ別保有国

シナリオ1	4
シナリオ2	16
シナリオ3	19
シナリオ4	19
シナリオ5	19 20 31 32 33 34 35
シナリオ6	29 30 31 32 33 34 35

董卓

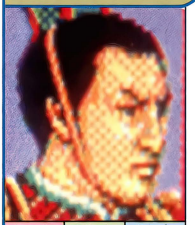


知力	武力	魅力
55	90	44

もとは涼州の出身だが、黄巾の乱の後に勢力を持つようになった。何進に要請されて洛陽を制圧し暴虐の限りを尽くした。美女の貂蝉をめぐって呂布と衝突し殺された。

保有国	シナリオ別	
	シナリオ1	⑩⑪⑫

呂布



知力	武力	魅力
25	100	15

三國志中、随一の豪傑だが、やや知力に欠ける。陳宮にそそのかされて曹操の兗州を取り、その後劉備を頼るが、その劉備が留守中に徐州を取るなど、かなりの悪者だ。

保有国	シナリオ別	
	シナリオ2	⑨

袁紹



知力	武力	魅力
70	81	70

冀州を中心に勢力を広げ、曹操と対立。曹操をはるかに上回る戦力と数々の有能な人材を有したが、部下の力を活かすことができず、200年の「官渡の戦い」で破れた。

保有国	シナリオ別	
	シナリオ1	⑥
	シナリオ2	⑥⑦
	シナリオ3	①②③⑥⑦⑧

袁術



知力	武力	魅力
69	80	50

寿春、合肥付近を領土とし、孫策に兵と馬を貸すかわりに伝国の玉璽をゆずりうけて皇帝を唱した。しかし、これが大きく反感を買い、曹操ら連合軍に敗れた。

保有国	シナリオ別	
	シナリオ1	⑲
	シナリオ2	⑰⑲

劉表



知力	武力	魅力
74	73	68

後漢の一族で、若いころから学者風で温厚な人として有名であった。決断力に欠けていたために後継者を決められず、結局劉備にすべてを託して病死した。

保有国	シナリオ別	
	シナリオ1	⑳
	シナリオ2	⑳㉑
	シナリオ3	⑳㉑㉒㉓

劉璋



知力	武力	魅力
70	50	90

父、劉焉の後を継いだが、「天府の地」と言われた蜀の人材を活かすことができず、劉備を援軍として向かい入れたが、彼が成都を攻めるとすぐに降参してしまった。

保有国	シナリオ別	
	シナリオ1	㉚㉜㉝（劉焉）
	シナリオ2	㉜㉝㉞
	シナリオ3	㉛㉜㉝㉞
	シナリオ4	㉚㉛㉜㉝㉞

馬騰

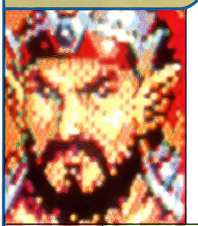


知力	武力	魅力
54	95	87

西涼州の太守。曹操に劉備を討つように求められて上洛するが、密かに曹操暗殺にチャンスを狙っていた。この計画は直前に発覚し、曹操に殺されてしまう。

保有国	シナリオ別	
	シナリオ1	⑭
	シナリオ2	⑭
	シナリオ3	⑭⑮
	シナリオ4	⑭⑮

新君主



『三國志II』では、新たな君主としてプレイできる。年齢や性別、知力と武力のどちらが高いかによって、顔のグラフィックも違うのだ。空白地に一国だけ自分の領地を確保することができる。

知力（例）	武力（例）	魅力（例）	ボーナスポイント
65	75	55	50

魏・呉・蜀 三国 28選 武将列伝

『三國志II』の武将たちは、みんな個性的でいろんな活躍をしてくれる。ここで選んだ28人のほかにも、紹介しきれない武将やエピソードがたくさんある。ここに掲載した武将は、350人の中から選んだ武将だ。このくらいはゲームの中で大切に使ってほしい。

魏 武将8選

呉・蜀にくらべて人材が豊富であるが平凡なものが多い。しかし、この8人は非凡人である。

夏侯惇



知	武	魅
59	93	71

曹操の従子にあたり、挙兵当初から曹操についていた。呂布との戦いでは左眼に矢を受けたが、これを眼球ごと矢を抜き、「父母にもらった大事な眼だ」といって食べてしまったといわれている。

郭嘉



知	武	魅
97	39	86

荀彧の推薦で曹操に仕え、「官渡の戦い」から北方征伐に向かい、すぐれた戦略案を出した。彼の死後、曹操が赤壁で大敗したときも「郭嘉がいればこんな目に会わなかっただろう」と嘆いたという。

夏侯淵



知	武	魅
60	90	71

「軍事に精通し、兵の機を見るに敏」と曹操の大きな信頼を受けた大将。漢中争奪戦においては、定軍山に本陣を置いて堅く守るが、老将黄忠と戦って敗れてしまい、斬り殺されてしまう。

荀彧



知	武	魅
97	39	89

29歳で曹操の傘下に入り、20年に渡って曹操の本拠地確保に活躍した。彼は清流派の名士を数多く推挙し、その中には荀攸、司馬懿など、魏の中の核となるメンバーが多くいた。

典韋



知	武	魅
31	97	52

夏侯惇の配下であった典韋は、その目覚ましい戦いぶりを認められて曹操の親衛隊長を務めた。戦闘のたびに鬼神のような働きで敵を震え上がらせたが、根は純真で、曹操に愛されていた。

司馬懿



知	武	魅
98	67	93

軍事的才能もある知将で、諸葛亮に翻弄された曹真に変わり、関中方面の総司令となる。軍事面では諸葛亮に一歩譲った彼ではあるが、早くから諸葛亮の死を見切り、戦わずに勝利を得た。

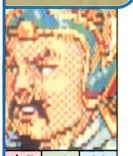
張遼



知	武	魅
80	91	80

呂布が曹操に斬られるとすぐに降伏し、曹操に仕えて厚く信頼された。215 年には、合肥方面を守り、孫権軍10万を800 の突撃隊で撃破するなど魏軍きっての猛将。さながら魏の関羽といったところか。

鄧艾



知	武	魅
94	86	79

263 年、鄧艾、鍾会の両大将は数十万の大軍で漢中に進撃し、たちまち敗った。しかし、剣閣は容易に抜けず、鄧艾は裏の陰平を突破し、いち早く成都に入城した。劉禅は降伏。ここに蜀が滅びた。

呉 武将10選

知将、猛将が多く、１人死んでもそれを埋める人材が必ず出てくるなどかなり強力である。

程普



知	武	魅
84	60	87

孫堅、孫策、孫権と三代に仕えた。董卓征伐のとき、孫堅とともに伝国の玉璽を見つけて持ちかえった。敵軍に包囲された孫策のため、矛をふりかざして包囲網を突破するなど猛将として知られている。

周瑜



知	武	魅
97	78	95

孫策の親友で、江東制覇に活躍した。内政の張昭に対し、外交、軍事の責任者として「赤壁の戦い」では劉備と同盟を組んで曹操を敗った。蜀征に向かう途中、36歳という若さで病死してしまった。

黄蓋



知	武	魅
58	88	73

三代に仕えて、「赤壁の戦い」では体を張って降伏と偽り、爆火船をぶつけて火攻めにより曹操軍を撃破するという最大の功績をあげた。厳格な性格で、少しの不正も許さなかったという。

魯粛



知	武	魅
96	63	92

周瑜にすすめられて孫策から孫権の代に渡り仕えた。親劉備派として呉と蜀の同盟に尽力した。周瑜の死後、軍事面の責任者となり、荊州問題は彼が生きている間はうまくいったが、死後問題となる。

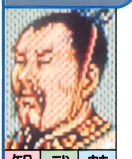
太史慈



知	武	魅
68	95	71

もとは劉繇の配下であった。「江東の小覇王」こと孫策と互角にわたりあった末に捕らわれるが、その武力をかわれて逃がしてくれた。その後すぐに敗残兵3000人を率いて孫策に心服する。

諸葛瑾



知	武	魅
93	52	92

諸葛亮の実兄。公私のけじめをはっきりつける人物で、呉の使者として出向いたときにも、公式の席以外ではいっさい諸葛亮と会おうとしなかったという。孫権から信頼され、呉王朝の大将軍となった。

甘寧



知	武	魅
51	92	52

劉表の臣下であったが見切りをつけて呉に士官しようとするが、黄祖にとどめられる。孫権との戦いで凌統の父を討ち、呉に仕えてからは黄祖を殺すなど猛将ぶりを発揮した。

呂蒙



知	武	魅
86	83	86

呉の主要な戦いにすべて参加し、先天的な軍事的才能を発揮した。勉強嫌いであったが、孫権に諭されて驚くほどの教養を身につけた。関羽を殺した直後、呂蒙も死んでしまった。

張昭



知	武	魅
95	30	84

若いころから学者として有名で、孫策に迎えられる。孫権にも仕え、内政の最高責任者となった。厳格な性格で、孫権としばしば対立したが、よく孫権をいさめた。81歳の長寿を保った。

陸遜



知	武	魅
96	81	85

呂蒙とともに関羽を討ち、「夷陵の戦い」では劉備軍を荊州の奥深くまで呼び込んで、疲れたところを攻撃し、圧倒的勝利を得た。数々の戦いで功績をあげ、244 年に丞相の地位に就いた。

蜀 武将10選

寄せ集めの武将といった感はあるが、個々の能力は抜群で三国一であろう。でも、人材の数は少ない。

関羽



知	武	魅
83	99	91

「桃園の誓い」により劉備と義兄弟となり、生死をともにする。一時的に曹操のもとに身を寄せたときも、恩返しをして劉備のもとに戻るなど、駆け引きのない真の信義を重んじる豪傑であった。

諸葛亮



知	武	魅
100	65	98

劉備の三顧の礼をうけ出廬。圧倒的に不利な劉備の軍師をつとめ呉を説得、「赤壁の戦い」で大勝利を得る。劉備の死後も志は変わらず、数度の北伐の軍を起こすが、五丈原の陣中で病死。

張飛



知	武	魅
32	99	35

劉備の義弟。粗暴なところもあったが、「長坂の戦い」では長坂橋をたった一人で守り劉備を逃がすなど奮闘ぶりもあった。蜀征では、生け捕りした厳顔の不屈の精神をたたえ、ゆるしたこともあった。

龐統



知	武	魅
98	61	87

鳳雛といわれ諸葛亮とともに司馬徽に認められた名士であった。劉備に仕え、重用するとめきめきと頭角を現し、諸葛亮と同格の軍師中郎将になった。しかし、蜀攻略のさい、流れ矢に当たって戦死。

趙雲



知	武	魅
85	99	92

もとは公孫瓚の配下であったが、劉備の人柄に惚れ込み、従うようになった。長坂では、劉備の長男阿斗（劉禅）を抱き血路を開いてもどるなど、数えきれない功績を上げた戦闘のプロであった。

魏延



知	武	魅
48	94	58

劉備が蜀に入ったときに随行し、親衛隊長となった。自信家で傲慢な面があり、諸葛亮を内心バカにしていた。人材不足の蜀にとっては惜しい猛将であったが、諸葛亮の死後、裏切り殺された。

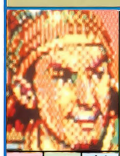
馬超



知	武	魅
42	98	60

父馬騰の死後、盟友韓遂と連合して曹操と戦うが、やがて敗退し張魯に身を寄せる。214年に劉備が成都を包囲したころ降伏。馬超が劉備軍に加わると、劉璋は恐れ、ただちに降伏したという。

馬謖



知	武	魅
80	75	70

馬良の実弟。優秀で諸葛亮に愛されたが、理論家で実戦経験が少なく、228年第一次北伐において街亭で大敗を喫し、責任をとらされ処刑された。世にいう「泣いて馬謖を切る」である。

黄忠



知	武	魅
66	96	83

劉表に仕えていたが、劉備の荊州平定のおり降伏。漢中争奪戦では、70歳の老齢にもかかわらず定軍山の夏侯淵を斬り、蜀軍を優勢に導いた。征西将軍に任じられ、関羽らと同等の五虎大将となった。

姜維



知	武	魅
94	91	88

もとは魏将であったが、第一次北伐で降伏し蜀の傘下に入った。諸葛亮に軍事的才能をかわれ後事を託され、費禕が死ぬと名実ともに蜀の大将軍となるが、北伐を行い、かえって蜀は疲弊してしまった。

三國志とは……

「三国志」とは、西晋の陳寿によって著された歴史書である。これに数多くのエピソードが加えられ、わかりやすく語り伝えられた講談を集大成した長編小説こそが、「三国志」である。作者は明の羅貫中。正式の名称は「三国志演義」という。歴史的に終始公正に史実を記した「三国志」に対し、「三国志演義」は劉備の蜀を漢の正統として善玉に、曹操を悪玉にしたてあげることによって、読みやすい大衆小説としての地位を確立した。日本には江戸時代中期に湖南文山が訳した「通俗三国志」として広く伝わり、吉川英治の「三国志」にいたるまで、「三国志演義」を基本としている。いずれにしろ、劉備も曹操もすべて実在の人物であり、歴史的役割も変わることはない。にもかかわらず、多くのエピソードが伝承されているということは、それだけ事実とフィクションの入り混じった「三国志」の世界と人物が庶民に愛されているということであろう。

参考文献

「読切り三国志」　井波律子著　筑摩書房
「人間三国志　2．軍師の采配」
林田慎之助著　集英社
「三国志（一）～（八）」
吉川英治著　講談社
「完訳　三国志（四）～（八）」
小川環樹　金田純一郎　共訳　岩波書房
「三国志　英雄ここにあり（上）（中）」
柴田錬三郎著　講談社
「三国志　世界を行く」
雑喉潤著　徳間書店
「中国古典名言辞典」諸橋轍次著　講談社
「三国志　勝つべき者が勝つ」
守屋洋著　ダイヤモンド社

テクノポリス

1990年2月号特別付録